



国臨協関信

HPアドレス <https://kanshinshibu.org>

令和元年8月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
 国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
 発行者 岩崎 康治
 編集委員 若林 弘・木津谷 亮
 小池 勝人
 印刷所 東洋印刷株式会社
 ☎ 03-3352-7443

第47回国臨協関信支部学会

『変革 ~新しい時代へ向かって~』

開催日：令和元年9月7日（土）

場 所：国立国際医療研究センター病院

■地下鉄

- 都営大江戸線：若松河田下車 徒歩5分
- 東京メトロ（東西線）：早稲田下車 徒歩15分

■都営バス

- 宿74系統：新宿駅から医療センター経由女子医大行き
国立国際医療研究センター病院前下車すぐ
- 橋63系統：大久保・新大久保から新橋行き
国立国際医療研究センター病院前下車すぐ
- 橋63系統：市ヶ谷・新橋から小滝橋車庫行き
国立国際医療研究センター病院前下車すぐ
- 飯62系統：都営飯田橋駅前（C1/C3出口）から
小滝橋車庫（牛込柳町駅経由）
国立国際医療研究センター病院前下車すぐ



COOL BIZ 宣言

学会にはどうぞ涼しげな軽装でご参加ください。
 支部役員もノーネクタイで務めさせていただきます。



第47回 国臨協関信支部学会日程表

会場名	5階大会議室 第1会場	4階セミナールーム 第2会場	研究所会議室 A・B 第3会場
9:00	《総合受付》(9:00～13:30) 総合受付は5階ロビーとなります ※ 演者は総合受付の後、各会場入り口で スライド受付をしてください		
9:30	《開会式》(9:28～9:30)		
10:00	《一般演題》(9:30～12:25) 1～10 生理	《一般演題》(9:30～12:25) 19～22 輸血	
10:30	11～15 病理	23～28 微生物	
11:00	16～18 生化学・免疫・血液	29～36 その他	
11:30			
12:00			
12:30	昼食休憩 (12:30～13:30)		
13:00	地下1階 職員食堂(ピアンモール)、売店などをご利用ください		
13:30	《学会企画》(13:30～14:20) 学術委員会による分科会		《学会企画》(13:30～14:20) 学術委員会による分科会
14:00	「免疫検査の基礎とピットホール」 血清部門担当		「知っておきたい尿検査の進め方」 一般部門担当
14:30	休 憩 (14:20～14:30)		
15:00	《学会セレモニー・閉会式》 (14:30～15:30)		
15:30	休 憩 (15:30～15:45)		
16:00	《意見交換会》(15:45～16:45)		
16:30	地下1階 職員食堂 (ピアンモール)		
17:00			

支部長挨拶

国立病院臨床検査技師協会

関東信越支部

支部長 岩崎 康治



平成31年4月20日に開催されました定期総会において、会員皆様に承認され2期目を仰せつかりましたNHO埼玉病院の岩崎でございます。執行部を代表しましてご挨拶申し上げます。

まず、小関前副支部長はじめ退任されました役員におかれましては、支部活動に大きくご尽力いただきましたこと紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

昨年の就任挨拶で「近年、検査科（部）を取りまく環境は大きく変わり、今年度も医療法の改正により大きな変革の年になろうとしています。」と書き出しました。皆様方の施設ではいかがでしょうか。標準作業手順書、医療機器点検表等の整備は進みましたでしょうか。

時代は「平成」から「令和」となり、日常生活などは急に変わることはありませんが、どこことなく心の中で「変化」を感じるのは私だけでしょうか。

国立病院機構楠岡理事長は、今年度からなる第四期中期計画を「変革期」としています。

日臨技は新たなカリキュラムを策定しようとしています。臨床検査技師長だけではなく副院長や事務長を育成していくもので、国立医療機関の臨床検査技師が副院長となり、経営管理者として活躍する日が来るのではと思います。また、精度保証施設認証制度も生化学・血算だけではなく生理検査を含む全ての分野に対して評価を行い、「精度保証」ではなく「品質保証」とする見直しをしようとしています。正に変革の時代になろうとしています。

定期総会は、会員269名の出席と232名の委任状・書面表決および多くの新採用オブザーバーのもと開催されました。また、今回は出向等で他支部から

関信管内（機構本部およびAMED）に勤務されていますお二人にもオブザーバー参加いただき関信支部の活動に触れていただきました。

事業方針等が承認され新たな支部活動がスタートすることになりました。今回は、地区会への助成金廃止や会計だけではなく会務も監査してもらうよう監事を置く規約改正など、多くの提案に対し承認していただきました。

2年目に入る学術委員会は、各施設の品質管理に対応できるような部門を設けることにします。国臨協本部ならびに技師長協議会と連携しながら会員皆様のお役に立てるようにしていきたいと思えます。

第1回研修会は大塚製薬株式会社女性の健康推進プロジェクトリーダーであります西山和枝氏に「女性の健康を考える」をテーマに講演していただきました。今後、女性が活躍していく中で直面する女性特有の健康について興味深く聴講させていただきました。皆様はどう感じられたでしょうか。女性の健康を知ること、よりよい職場にする切っ掛けになればと思います。今後も充実した研修会を企画していきたいと思えます。

第47回国臨協関信支部学会は「変革～新しい時代へ向かって～」をテーマに、再び国立国際医療研究センターでの開催となります。今回は重なるトラブルを抱えていましたシステム関係を委託しスムーズな学会運営をしていきたいと思えます。

支部ニュースは引き続き新しい紙面作りを目指します。ホームページはタイムリーな更新を目指し、更新のお知らせを各施設に行いより一層会員にアクセスしてもらえらる広報の場にしていきたいと思えます。

国臨協本部、技師長協議会、専門職、地区会などと連携しながら、会員皆様のための支部を役員一丸となって築いていきたいと思えますので、ご協力ご支援のほどよろしくお願いたします。

第1回関信支部主催研修会に参加して



NHO さいがた医療センター
蓮見章太

平成31年4月20日(土)国立国際医療研究センター国際医療協力センター棟5階大会議室において第47回国臨協関信支部定期総会の後、平成31年度第1回国臨協関信支部主催研修会が開催されました。当日は穏やかな好天に恵まれ、会場は多くの出席者で満員となりました。

講師には大塚製薬株式会社・ニュートラシューティカルズ事業部・女性プロジェクトリーダー、西山和枝先生をお招きし「女性の健康を考える」と題した講演が行われました。

まず女性を取り巻く社会的環境には日本社会の構造的課題でもある女性への労働力の需要と少子化対策などがあります。そのような環境の中で女性はライフステージが女性ホルモン(エストロゲン)により様々な影響をうけていて、月経周期に伴う体調の変化があること、それに伴う随伴症状やPMS(月経前症候群)、女

性特有の疾病の増加などが女性の社会的立場を拒む課題になっているとのことでした。そしてエストロゲン低下に伴う脂質異常症や骨粗鬆症についてもご説明していただきました。デリケートな問題ですが男性が女性に対して気遣いや声掛けなどをもう少しできるようになればより良い職場環境になるのではと感じました。また日本の婦人科がん検診の受診状況は他の先進国に比べ著しく低いそうです。外国の受診率が高い理由としては夫や近親者が受診を促しているためのとのことでした。検診のことを気にかけてくれる方がいてより受診に気持ちが向くのだと思いました。今回このような貴重な講演を聞くことができ大変勉強になりました。

最後にお忙しい中ご講演いただきました西山先生をはじめ、研修会をご準備いただいた関信支部役員の皆様に心から感謝申し上げます。



国立成育医療研究センター
橋本未来

平成31年4月20日(土)、国立国際医療研究センター5F大会議室において第1回国臨協関信支部主催研修会が開催されました。大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業部 女性の健康推進プロジェクトの西山和枝先生より「女性の健康セミナー」と題してご講演をいただきました。

はじめに女性ホルモンの影響についてお話していただいたのですが、年齢による体調変化だけでなく月経周期でも大きな体調変化があり、女性の快適とされる期間が1か月のうち7日程度しかないという事実に驚きました。また、月経前症候群(PMS)や更年期障害についても詳しくご説明いただき、言葉としては知っていても実際にどのような症状があるのか十分に理解していなかったもので、大変勉強になりました。特に更

年期障害については、発症時期が役職などに就き責任ある立場となる時期と重なるため、女性のキャリアアップへ大きな影響を及ぼしていると知りました。PMSも更年期障害も一度きりのことではなく定期的、長期的に続くため、生活習慣の改善や治療等に取り組み、症状をよく理解し上手につきあっていかなければなりません。さらに共に働く方たちの協力が不可欠であり、社会全体に理解が広がることで女性が働きやすい環境ができると思います。今回の研修で学んだことを、今後働いていくうえで活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中ご講演いただきました西山和枝先生ならびに開催・運営にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



平成30年度合同交流会に参加して



NHO 横浜医療センター
遠藤 隆

平成31年4月20日(土)平成30年度国臨協関信支部合同交流会が新宿ワシントンホテル本館3F宴会場 すばるで開催されました。

昨年同様、多数の会員の参加がありました。

今回退職される前全国立病院検査関連部科長協議会副会長の蛇澤先生にもご臨席を賜り、渡司技師長、菅技師長、児玉技師長、久高技師長にもご参列いただきました。

小関副支部長、石川理事の司会進行の下、岩崎支部長の挨拶から始まり、石井国臨協会長、藤川OB会会長、渡邊本部専門職から祝辞をいただき、北沢グループ専門職の乾杯を合図に会が始まりました。

今年の合同交流会は2部構成になっており、前半は退職者のセレモニー、後半は新人紹介の場になって、

乾杯前に退職者によるご挨拶がスライド上映を交えた形で執り行われました。例年ですと会が始まるのと同時に会場内が騒がしくなり、退職者の挨拶が全然聞こえませんでした。今回は始めに挨拶があったので良かったです。後半は各施設の新人紹介が始まり、緊張した面持ちで各々が挨拶を行っていました。

また会の最中はOBの先生方や現役、新人との交流が始まり、会が大いに盛り上がりました。会場内を移動するたびに知り合いに会う機会が多く2時間では時間が足りないくらいでしたが、有意義な時間を過ごすことが出来ました。閉会後も新宿の街に繰り出してさらに親睦を深めた方々もいたようです。

今回、退職された先生方におかれましては、長年の労をねぎらうと共に健康に留意され、益々のご活躍をお祈り申し上げます。最後に本会を企画、運営されました関信支部役員の皆様ならびに、ご助力いただきました会員の皆様には心から感謝申し上げます。



国臨協関信支部 HP にたくさんの写真を掲載しています。ぜひアクセスしてみてください (URL : <https://www.kanshinshibu.org/>)

令和元年度 新採用職員研修に参加して



NHO 霞ヶ浦医療センター
篠田 菜月

令和元年5月15日～17日の3日間、国立病院機構本部講堂にて開催された医療技術職員等新採用職員研修に参加させていただきました。

研修初日の午前には、「国立病院機構の役割」「労務管理関係」について講義していただき、午後は「新採用職員として必要なこと」として、7職種の先輩方から、新人時代の悩みや気をつけるべきことなど、ご自身の経験をもとにこれから業務をしていくうえでのアドバイス等をご講義いただきました。

先輩方のお話は、今の自分の悩みと共通する部分がありとても参考になりました。

職種別分科会では、北沢臨床検査専門職より社会人およびNHO職員として必要なこととお話して頂いた後、「患者サービスとは」をテーマに職種ごとのグループに分かれてディスカッションを行い、代表の班が発表をしました。

私の班では、迅速かつ正確な結果報告と患者様個々

に合わせた対応について討議を行いました。そのために自分たちの技術・知識を上げることが必要であるという結論に至りました。

2日目は接遇研修として、お辞儀の仕方や言葉遣いなどの基本から、クレーム対応について、演習を交えつつ講義して頂きました。

これから患者様と接する機会が増えてくるので、どのような対応が必要になっていくのかを学ぶことができよかったですと感じました。

最終日は与えられたテーマについて、班別に討議・発表を行い、大人数で意見をまとめていくことはチーム医療で必要なことだと感じました。

また、普段あまり接することのない職種の方々と交流ができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の研修で学んだことを日々の業務にて実践し、自分のものにしていけるよう努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回の研修を企画していただいた関信グループの皆様および北沢臨床検査専門職、ご多忙の中講義して下さった先生方、そして研修参加の機会を与えて下さった技師長はじめ施設の皆様に心より御礼申し上げます。

令和元年度 初級者臨床研究コーディネーター養成研修に参加して



NHO 信州上田医療センター
山邊 ゆかり

令和元年5月27日から31日の5日間、国立病院機構本部において令和元年度初級者臨床研究コーディネーター養成研修が開催され、国立病院機構以外の施設からの参加を含め、北海道から沖縄まで全国から看護師、薬剤師、臨床検査技師等、CRCとしての実務経験が2年未満またはこれからCRCに携わる予定者など計77名が参加しました。

本研修会は、質の高い臨床研究・治験を実施するために、研究倫理及び被験者保護について理解し、迅速かつ効率的に推進することが出来るCRCの育成を図ることが目的とされており、臨床研究に関する基本用語に始まり、臨床研究・治験における倫理指針や法令・省令について、治験業務の流れとCRCの役割など盛りだくさんの講義を受講しました。普段治験業務にほとんど関わりのない私にとっては、初めて聞く単語や内

容に頭をフル稼働させる時間となりましたが、CRCの業務は治験担当医師・被検者・依頼者の対応や関連部門との連携・調整など多岐にわたっており、臨床研究・治験を行なう際には不可欠であることが分かりました。また、グループに分かれて行なった模擬治験ICのロールプレイでは、CRC役と被験者役になり説明文書を用いたICを体験し、相手の理解度を確認しながらわかりやすく説明することなどコミュニケーションスキルの必要性を痛感しました。

本研修の講義で学んだことを基に、秋には指定病院での実習研修にも参加する予定です。実際の現場を体験させていただくことにより、臨床検査技師の立場でどのように治験業務に携われるかを検査科にフィードバックできるようにしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本研修会を企画・運営して下さった機構本部総合研究センター治験研究部の皆様、並びにご多忙の中講義して下さった先生方に心より感謝申し上げます。

地区会だより

茨城地区会交流会に参加して



NHO 水戸医療センター
古賀 菜摘

平成31年3月2日(土)、茨城県つくば市の筑波ハムにて茨城地区会交流会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、会員24名

の参加がありました。

例年はボウリング大会が恒例となっていました。今年度の地区会交流会はソーセージの手作り体験が行われました。各テーブル6名程度に分かれ、講師の方の話を伺いながらソーセージの作製を行いました。塩漬けした豚肉、香辛料などが入ったタネを羊の腸に絞り出していきます。始めは加減が難しく空気が入ってしまい、思っていたよりも上手くいきませんでした。同じテーブルのメンバーと試行錯誤しながら徐々にコツを掴み、それなりに形の整ったソーセージを作ることができました。試食のミートローフや余ったタネで作った肉団子もとても美味しく、楽しく貴重な経験となりました。ソーセージはお土産として自宅でボイ

ルして美味しくいただきました。

体験教室の後、隣接する「レストラン自然味工房」にて懇親会が行われました。まず、茨城地区永井会長のご挨拶があり、美味しいハムや料理を頂きながら、他施設の方々と交流を深めることが出来ました。その後、豪華景品のビンゴ大会が行われ、普段あまり運がないと言われることの多い私ですが、なんと景品として高級フルーツゼリーの詰め合わせを頂くことができました。最後に、転勤される会員の方々よりご挨拶がありました。同施設や地区会にてお世話になりました会員の皆様には新たな勤務地でのご活躍をお祈りするとともに、今後も何らかの形でご指導や交流を続けて頂けたら良いと思っております。

最後になりますが、お忙しい中今回の交流会を企画・開催して頂きました茨城地区会役員の皆様にご心より御礼申し上げます。



東京・山梨地区会レクリエーションに参加して



国立国際医療研究センター病院
戸田 友理奈

令和元年5月11日(土)、関信支部東京・山梨地区会レクリエーションが渋谷ガーデンホールで開催されました。会場は渋谷駅から

徒歩1分とアクセスがよく、事前に食材や機材も準備されていて身軽に参加が出来ました。雨でも中止の心配がない屋内BBQでしたが、当日は爽やかな晴れの日となり絶好のBBQ日和となりました。参加施設は国際医療研究センター病院、村山医療センター、成育医療センター、甲府病院、東京医療センターの5施設の各会員が約50名参加しており、会場はとても賑わっていました。

熊谷事務局長(甲府病院)の司会進行により、石井会長(成育医療センター)のご挨拶からBBQがスタートしました。私は今年度の新採用でしたので、いつもお世話になっている上司や他の施設の方々が周囲にいる状況に始めは緊張していましたが、普段の業務では見

られない一面を発見したり、楽しく会話をしていくことで緊張が解れていきました。思っていた以上に鉄板コーナーが小さかったため少しずつ肉や野菜を焼かなければなりませんでした。熱々の焼肉と冷たいドリンクとの相性は抜群であり、また大人数での賑やかな食事は一人暮らしの私にとってかけがえのないひと時でした。

周囲との交流を深めつつ程よく酔いが回ったところで、待ちに待ったビンゴ大会が始まりました。一等は高級牛肉、二等はメロンなど豪華景品や各施設の技師長の思いがこもった品々が陳列され、より気分が高揚しました。残念ながら景品には手が届きませんでした。ビンゴ大会を通してより周りとの絆が深まったように感じて大変嬉しく思います。

最後になりますが、お忙しい中今回のレクリエーションを企画開催して頂いた東京・山梨地区会の役員皆様にご深謝申し上げます。



地区会だより

埼玉地区会交流会に参加して



NHO 西埼玉中央病院
寺 瀬 ひなの

私はこの春より新社会人として西埼玉中央病院で勤務させて頂き、今回初めて埼玉地区会交流会にも参加させて頂きました。22年間地元新潟から出たことがなく、新しい土地での初めての参加ということで、非常に緊張していましたが、皆様が温かく迎え入れてくださり、和気藹々とした雰囲気の中で過ごすことが出来ました。

サントリーのビール工場見学では、1つ1つのこだわりぬいた原料のことから、試行錯誤を繰り返された各作業工程まで、普段知ることの出来ない部分を詳細に調べてとても新鮮でした。初めて麦を生で食べ、初めてホップの香りを感じ、初めてのことがばかりでとても刺激的でした。



また、病院の枠を超えて、多くの先輩方、同期の方々と交流ができ、非常に有意義な時間を過ごせました。各病院の特色や臨床検査技師としての考え方・思いをお互い交換でき、自分を見つめ直す機会にもなりました。お互いに高め合い、助け合っていくためにも、このような縦と横の繋がりを大切に、より強めていくことが重要だと実感いたしました。今後も埼玉地区会交流会を含め様々な行事に積極的に参加し、意見交換を通じてあらゆる視点から物事を考えられる臨床検査技師になりたいと思いました。

まだ働き始めて間もないですが、今できることを精一杯真剣に取り組み、着実に出来ることを増やしていきたいです。また、今回見聞きしたこと、自分が感じたことを胸に、目標とする臨床検査技師像を持って日々の業務に取り組みたいと思います。そして、1日も早く先輩方の様な親しみやすく頼れる臨床検査技師になれるよう精進いたします。



東京地区会レクリエーション(BBQ)報告

～東京病院新採用職員：森木美里、鈴木雅也より～

令和元年5月18日(土)、昭和の森ガーデンにて、関信支部東京地区会文化交流会が開催されました。天候が心配されましたが当日は絶好のBBQ日和となり、5施設から51名の参加、東京病院からは11名の参加でした。BBQのメニューは厚さ5cm?のお肉とまるまるとした新鮮な野菜、デザートとしてチョコフォンデュなど食べきれないほどの量でした。各テーブルで違う施設の方と協力し合って具材を焼き、おいしいご飯やお酒をいただきながら、笑顔と会話がはじけ最後までにぎやかに開催されました。ここで東京地区会に今回はじめて参加した、東京病院に新採用された森木技師と鈴木技師の感想を紹介します。

森木：新人である私にとって、他施設の方との交流はほぼ初めてのことであり、仕事の話からプライベートな話まで貴重なお話をたくさん聞くことができ、とても有意義な時間となりました。また、私は地方出身で知り合いも少ないためこういった場はとても有難く、大切にしていきたいと思いました。

鈴木：私が国立病院機構に入職しよ



うと思ったきっかけである臨地実習先の国立がん研究センター中央病院の方々と久しぶりにお会いでき、実習中の思い出話をするともに、働き始めてからの近況を報告することができました。実習生のときにお世話になった方々と、同じ臨床検査技師としてお話ができたことを嬉しく思います。また、他施設の方だけでなく、同じ職場でも仕事上あまり関わりのなかった他部署の方々とも交流を深めることができました。貴重な時間を過ごすことができ、仕事上の付き合いだけでなく、こういった交流の場も大切にしていきたいと思いました。

以上となりますが最後にお忙しい所、地区会レクリエーションを開催していただいた地区会役員の方々に、心から御礼申し上げます。



～ 会員の広場 ～



NHO 埼玉病院

柳 進 也

唐突ですが皆様はカポエイラをご存じでしょうか。私はこのカポエイラに魅了されて、気付くと9年が経過しておりました。今回はそんなカポエイラの魅力を皆様に紹介したいと思います。

カポエイラとは古くは16世紀、ポルトガルの植民地だったブラジルのサトウキビ産業を発展させる為に労働力として連れてこられたアフリカの黒人奴隷達が支配者の理不尽な暴力から身を守るために護身術として生み出した足技中心の格闘技です。

カポエイラは格闘技ですが、いわゆる武術ではなくどちらかというとダンスに近い格闘技になります。

ホーダと呼ばれる輪を作り、楽器を奏で歌を歌い、ホーダの中心で2人が技術を競い合います。

カポエイラで繰り返す蹴りは相手を傷つけるのが目的ではなく、相手を理解し調和を図る為の蹴り、謂わば仲良くなるための蹴り、コミュニケーションツールである。

力ではなく、頭を使い、互いの隙を誘い、勝ち負けにこだわらず相手との調和を大事にする格闘技それがカポエイラ。

どんな動きをするのかとかは言葉では表せないの
でYouTubeとかで見てください(笑)。

カポエイラにも柔道や空手と同様に帯びが存在し

ます。

カポエイラを始め1年くらいが経過するとBatizado (バチザド) という洗礼式を受け、指導者たちとjogoと呼ばれる試合を行い、日頃の稽古の成果を披露します。その際に初めての帯(黄緑帯: Aluno) を授かり、同時に Apelido (アペリド) と呼ばれるカポエイラ名(相撲で言うしこ名のようなもの) を授かります。ちなみに自分は Bebesaon: ベベザウォン(日本語訳は大きい赤ちゃん) です。2年目以降は Troca de Corda (トロッカ・ジ・コルダ: 帯の交換) と呼ばれる昇段式に参加し、実力や知識を総合的に評価し次の帯を授かります。自分は現在6本目の帯(黄色帯: Monitor) です。

まだまだカポエイラについての魅力の100分の1も語れていませんが、自分はカポエイラの中毒になりすぎて一度半月板を断裂させてしまいましたが、それでもまだカポエイラを諦めきれず、手術して復帰し、再度断裂させました。でもまだ続けています。それだけ人を魅了する魅惑のカポエイラ、少しでも興味が持てたのなら体験してみたいかでしょうか。



国臨協関信支部役員紹介

役務分担	氏名	施設名
支部長（総括）	岩崎 康治	NHO 埼玉病院
副支部長（総括補佐・学術）	吉田 茂久	NHO 信州上田医療センター
副支部長（総括補佐・広報）	若林 弘	NHO 霞ヶ浦医療センター
事務局長（事務局）	椎名 将昭	NHO 水戸医療センター
理事（事務局）	田中 暁人	NHO 相模原病院
理事（事務局）	岡村 康子	NHO 埼玉病院
理事（学術）	小川 裕子	国立成育医療研究センター
理事（学術）	白倉 聡	国立国際医療研究センター病院
理事（学術）	松林 秀弥	国立がん研究センター中央病院
理事（広報）	木津谷 亮	NHO 甲府病院
理事（広報）	小池 勝人	NHO 横浜医療センター
理事（広報・HP）	竹内 智也	NHO 久里浜医療センター
理事（会計）	石田 健倫	NHO 千葉東病院
特任理事	渡辺 靖	NHO 西新潟中央病院
相談役	北沢 敏男	NHO 甲府病院
監事	小関 燈	NHO 西埼玉中央病院
監事	益田 泰蔵	NHO 下志津病院



新任理事挨拶

関信支部常任理事の事務局という大役を仰せつかり、はなはだ微力ではございますが、他の役員にご指導をいただきながら関信支部のますますの発展と、皆様が積極的に参加していただけるような支部活動を目指して会務を行ってまいります。よろしくお願いいたします。

（田中 暁人）

学術担当となりました松林です。支部会員の皆様の一助となれるよう、微力ながら尽力させていただきます。宜しくお願い致します。

（松林 秀弥）

学術担当の小川です。初めての理事でわからないことはありますが、精一杯頑張りたいと思います。

（小川 裕子）

本年度、会計を担当させて頂くことになりました千葉東病院の石田です。趣味は登山で、北アルプスや南アルプスへの登山経験もあります。理事は初めての経験ですが、ご迷惑をおかけしないように頑張ります。

（石田 健倫）

広報担当となりました木津谷です。微力ではありますが支部会員の皆様のお力になれるよう、精進してまいります。

（木津谷 亮）

今年度より関信支部広報を担当する事になりました、小池と申します。

関信支部広報の大役を仰せつかりまして、恐縮いたしますが、会員の皆様に興味を持って読んでもらえる支部ニュースをお届けできるよう頑張ってお届けいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

（小池 勝人）

**関信支部より
叙勲受章のお知らせ**

平成31年春の叙勲におきまして、元国立障害者リハビリテーションセンター病院臨床検査技師長 前野 しのぶ 氏、元国立水戸病院臨床検査技師長 涌井 重勝 氏が保健衛生功労者として瑞宝双光章を受章されました。御二方のこれまでのご功績を讃えるとともに、国臨協関信支部会員一同、心よりお祝い申し上げます。

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	支部行事	地区会	その他
9月	6日	金曜日			臨床検査技師登録選考試験
	7日	土曜日	第47回関信支部学会		
	14日	土曜日		埼玉地区会定期総会	
	21日	土曜日		神奈川地区会定期総会	
10月	5日	土曜日			主任技師等任用候補者選考
	19日	土曜日		新潟地区定期総会	
	26日	土曜日		東京地区会定期総会	
11月	1日	金曜日			主任臨床検査技師育成研修(NHO)
	2日	土曜日			主任臨床検査技師育成研修(NHO)
	7日	木曜日	第21回全国支部長会議		臨床検査部門合同懇親会(名古屋)
	8日	金曜日			第73回国立病院総合医学会(名古屋)
	9日	土曜日			第73回国立病院総合医学会(名古屋)
	16日	土曜日		栃木地区会定期総会	
	23日	土曜日		群馬地区会定期総会	

人事異動

【平成31年4月30日付 退職者】

氏名	施設名	職名
中田 瑞 菜	NHO災害医療センター	技 師
山崎 大 空	国立国際医療研究センター病院	非常勤

【令和元年5月1日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名
片桐 春 香	国立がん研究センター中央病院	技 師
関口 光	国立がん研究センター東病院	非常勤
市川 彩 果	国立がん研究センター中央病院	期間職員

【令和元年5月7日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名
福島 成 美	国立国際医療研究センター国府台病院	非常勤

【令和元年5月16日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名
川嶋 利 治	国立成育医療研究センター	非常勤
諸富 伸 吾	国立国際医療研究センター病院	非常勤

【令和元年5月20日付 配置換え】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
菅原 恵 子	NHO東京医療センター	副技師長	NHO埼玉病院	副技師長
阿部 浩	NHO横浜医療センター	主任技師	国立療養所多磨全生園	主任技師

【令和元年5月20日付 昇任】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
澤部 祥 子	NHO箱根病院	技師長	NHO東京医療センター	副技師長
古賀 裕	NHO埼玉病院	副技師長	NHO横浜医療センター	主任技師

【令和元年6月1日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名
松井 香 穂	NHO高崎総合医療センター	非常勤
吉岡 優 香	国立成育医療研究センター	非常勤

【令和元年6月16日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名
若井 進	国立国際医療研究センター病院	非常勤

【令和元年6月17日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名
花澤 琢 也	国立がん研究センター東病院	技 師

【令和元年6月30日付 退職者】

氏名	施設名	職名
小澤 理 利	NHO村山医療センター	技 師
河本 菜 穂	国立国際医療研究センター病院	技 師

【令和元年7月1日付 採用者】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
篠崎 翔 平	NHO村山医療センター	技 師	国立成育医療研究センター	期間職員
大城 雄 介	国立国際医療研究センター病院	技 師		
濱田 沙 夢	国立成育医療研究センター	期間職員	国立成育医療研究センター	非常勤

編集後記 最近、地区会交流会の原稿が届くたびに、その内容に驚かされます。今までは、ボウリングをして、その後の懇親会がメインだったと思いますが、近ごろのイベントは、会員皆が「楽しめる」「体験できる」事を行っているように感じます。座禅・バーベキューガーデン・インドアバーベキュー・野球観戦！などなど。

投稿されている写真に、その楽しさが垣間見られると思います。自分の地区も負けずに、皆が楽しめる事を企画しないって思う次第です。 (広報 若林 弘)

覚えよう 身につけよう 検査技術!

乳がんの現状と超音波検査 生理部門 NHO東京医療センター 石川 明子

《はじめに》

現在、日本人女性30～60代の罹患率のトップは乳がんです。ピークは40代と若く、生活環境やライフスタイルの多様性から乳がん患者数は年々増加傾向にあります。

《乳がん検診の最新動向》

「マンモグラフィ+視触診」の併用から「視触診は推奨しない」指針に変更されました。若い女性は乳腺濃度が高くマンモグラフィでは判定困難になることがあり、任意型の検診では科学的根拠が不明なまま超音波が併用されてきました。近年、J-STARTによって超音波が客観的に評価され、一定の評価を得ました。

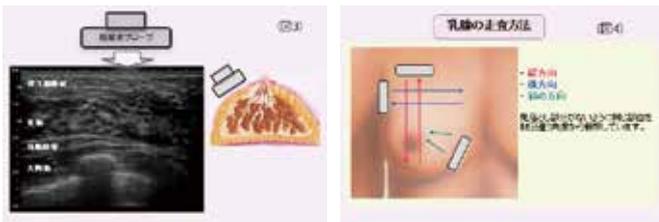
～ J-STARTって何? ～

厚生労働省が2007年から開始した「超音波検査による乳がん検診の有用性を検証する比較試験」というプロジェクトです。7万人以上が参加し「マンモグラフィ単独」VS「マンモグラフィ+超音波」の群に分けて大規模な臨床試験が行われました。マンモグラフィ単独に比べて超音波を加えた群では発見率1.5倍、がん発見感度91.1%と良好でしたが、超音波検査を加えることで要精密率が12.6%と上昇し、特異度の低下が懸念される結果となりました。

《乳腺超音波の実際》



超音波プローブから人には聞こえない高域の音波を体内に発信します。各組織や臓器に当たった音波は一部が反射しプローブに戻ってきます。戻ってくるまでにかかった時間、音波の強度をもとに描出される距離や形が決まり、モニターに画像化されます(図1)。白黒の濃淡は構成している組織の成分を反映します。正常乳房は、図2のような構造を持っており、高周波プローブ(中心周波数10MHz程度)で描出すると図3のような画像が得られます。プローブ側から皮膚(3層構造)、皮下脂肪層・乳腺組織・後脂肪層・大胸筋が描出されています。



実際の走査では図4のように乳房の形に沿うように探触子を動かし、多方向から観察します。乳房の圧迫は乳房が変形しないくらいのソフトタッチで行い、乳頭直下は探触子の密着が悪く死角になりやすいため、ゼリーを多めに塗り、乳頭の側方から入射するように走査します。

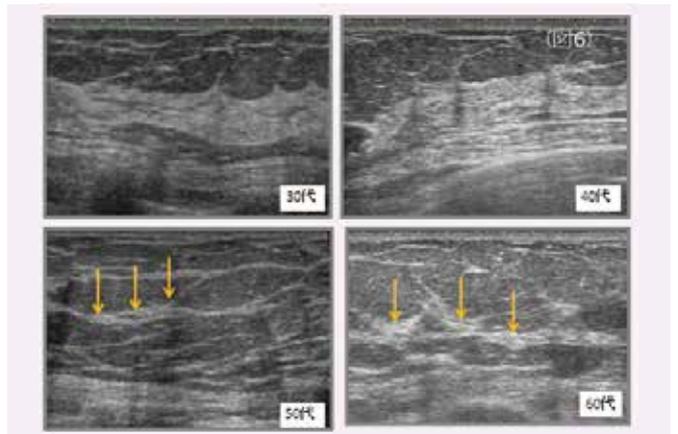
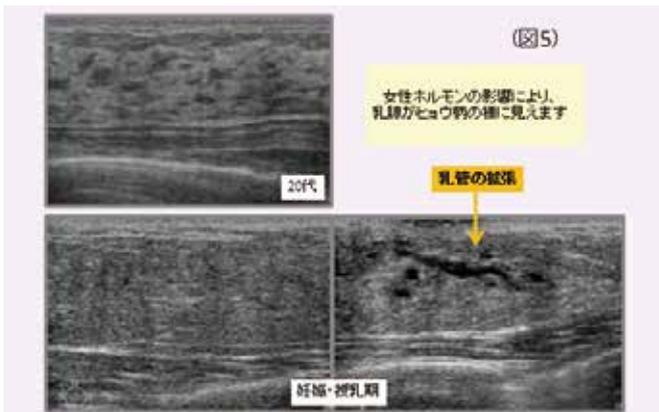


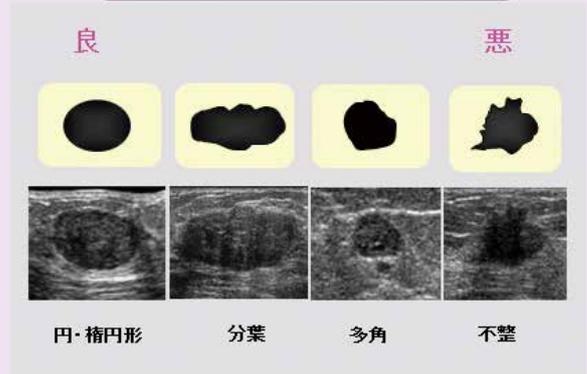
図5、6は年代別、妊娠・授乳期の乳腺ですべて正常例です。変化の大きさがわかるでしょうか。年齢が上がるにつれ乳腺組織は脂肪に置換されていきます。個人差がかなり大きいため年齢だけで区切ることはできませんが、乳腺は正常バリエーション像が非常に豊富であることを知っておく必要があります。このような多彩なエコー像が異常検出の特異度を下げる一因になっているかもしれません。

乳腺超音波断層法の診断基準 (図7)

所見	形状	辺縁	境界コー	内部コー	後方コー	外側陰影	縦横比
良性	整	平滑	なし 規則的 棘状	なし 線相均一	増強 不変	著明	小
悪性	不整	粗雑	不規則 帯状	粗雑不均一	減弱 消失	なし	大

日本超音波医学会乳がん診断基準に関する委員会による

腫瘍の形状からうける印象 (図8)



乳腺内に正常パターンと異なる像を見つけたら、それが何かを見極めなくてはなりません。漠然と腫瘍像を観察し、何となく悪性、何となく良性では不十分です。腫瘍形状から受ける印象と共に、辺縁・境界・内部など各診断基準に照らして理論的に判断していくことが必要です(図7、8)。腫瘍像非形成性病変では、乳管拡張、乳腺内の低エコー域、多発小嚢胞、構造の乱れの有無を判断基準とし、病変範囲を特定していくことが大切です。

★220号では典型的な超音波画像を解説したいと思います。

参考文献

- 1) 松江寛人、岩下淨明：乳腺超音波診断法。金原出版株式会社、2002
- 2) 日本乳腺甲状腺超音波診断会議：乳房超音波診断ガイドライン第3版。南江堂、2014